

エビデンスに基づいた処方提案のための薬の位置づけデータベースの構築

○高嶋理子¹、柴田里枝子¹、石川真代²、大野逸子¹、杉平直子¹

¹メディカルデータベース株式会社

²メディカルデータベース株式会社（現：愛知医科大学病院 薬剤部）

【背景・目的】

これまでも薬剤師の役割として、専門的知識を活かした薬物治療の適正化への取り組みが求められてきた。さらに、医師の業務負担軽減のためのタスク・シフト／シェアの推進を背景に、これまで以上に患者背景に応じた最適な処方提案が求められていくと考えられる。今回エビデンスに基づく処方提案を支援するため、診療ガイドライン(以下、GL)をもとに医薬品の治療上の位置づけや、医薬品ごとの特徴・特質をまとめたデータベースを構築したので報告する。

【方法】

医療現場で働く薬剤師が日常でよく遭遇する疾患として、高血圧・糖尿病・骨粗鬆症・関節リウマチ・炎症性腸疾患の5疾患を対象とした。これらの疾患に使用される医薬品の治療上の位置づけや同種同効薬との違いを、GLを中心とした各種資料を参考にデータ化した。疾患ごとに医薬品間で比較可能な項目を「比較項目」としてそれぞれ設定した。比較項目以外の特徴は「位置づけテキスト」として各医薬品ごとに入力した。さらに、比較項目や位置づけテキストから、医薬品ごとの特筆すべきポイントを抜き出し「位置づけポイント」として端的な言葉でまとめた。

【結果】

疾患ごとに、治療効果、合併症や年齢など患者属性をふまえた推奨度、安全性、薬物動態、作用機序などに関する情報の一覧化と、項目別の医薬品間での比較が可能となった。また、位置づけポイントとして端的にまとめることで、日常よく遭遇する疾患の治療薬としての位置づけ、特徴、同種同効薬との相違が一目でわかるようになった。

【考察】

本データベースにより、GLで推奨される医薬品やその特徴が一目でわかり、同種同効薬との比較が容易になったことで、患者背景に応じた処方提案の支援が可能になると考えられる。今後は、対象疾患の拡張とともに、GLの改訂に伴うメンテナンスを随時行っていきたい。